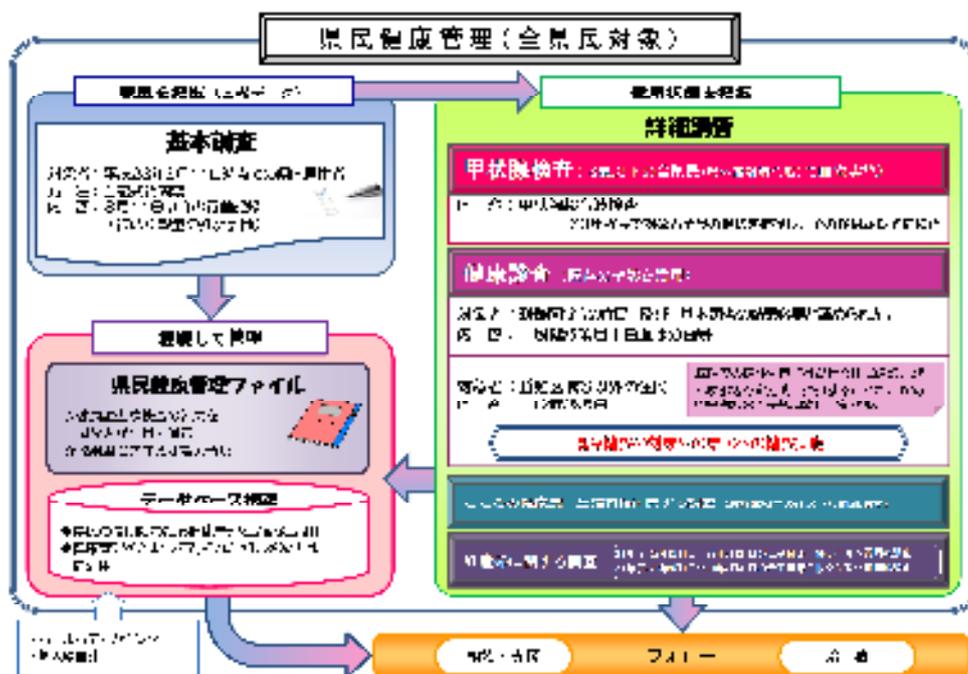


派遣先所属 福島県 県民健康管理課  
 氏 名 松村 剛政 (まつむら たかまさ)  
 松本 直記 (まつもと なおき)  
 派遣期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

### 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の県民健康管理課では、主に「県民健康管理調査」に関する業務を行っています。これは、東日本大震災やその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故により、多くの県民の皆さんが健康に不安を抱えている状況を踏まえ、長期にわたり県民の皆さんの健康を見守り、将来にわたる健康増進につなげていくための事業です。(下図参照)



担当業務はホールボディカウンター検査（以下 WBC 検査）、県民健康管理ファイルの作製・交付等で、特に WBC 検査について福島県の職員及び他県からの派遣職員と一緒にしています。WBC 検査というのは、人の体内に取り込まれた放射性物質（放射性セシウム等）の量を測定し、内部被ばくを評価する検査です。（レントゲンのように X 線を体に当てて行う検査ではないので、WBC 検査によって被ばくすることはありません。）

我々は、この WBC 検査の中でも県外への避難者・転出者に向けた県外検査の企画・調整及び県内検査を含めた全検査データの管理を主に行っております。福島県が実施する WBC 検査は、主に車載式の検査機器を使っており県外検査の場合、相手方の県と検査日や検査会場を調整するのですが、その際、検査車の特殊性により通行できる道や駐車場所が限られるため、会場の確保と受検者の利便性の両立に苦心しております。

そんな中で、今年度はこれまでに山形県、秋田県での検査を実施。現在（11月1日時点）は岩手

県、宮城県、京都府、兵庫県での検査日程が決定し、受付を実施中。併せて、実施時期は未定ですが関東圏での検査実施に向け各県を回り調整を行っています。

「県民健康管理調査」は、現在の福島県で最も重要な事業の1つですので、今後も少しでも福島県の皆様のお役にたてるよう努めていきたいと思っております。



## 2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

我々が現在住んでいる福島市においては、被災地ではございますが、内陸のため、津波の爪痕等はないので、目に見える被害と言えば道路が多少波打っている場所がある程度で大きく生活に影響が出ていることはないかと思います。

もちろん、原発による目に見えない不安はございますが、ニュースや新聞、それから業務を通じ、正しい情報が埼玉県に住んでいる時よりもたくさん入ってくるため、生活に不安はさほどございません。しかしながら、この問題が復興の妨げになっていることも事実かと思えます。

また、実際に東北において生活を送る中で感じることは、全体的に情が深い方が多いと感じ、またその優しさにとっても助けられております。

福島県の街としての印象ですが、今年福島で開催された東北六魂祭、福島わらじ祭り、二本松市提燈祭り等を見させて頂きました。どのお祭りについても、地元の方達の伝統への敬意を感じ、素晴らしい一体感を生み出していました。

目に見える被害についてですが、やはり東北圏の沿岸部は津波の影響をとっても感じます。私（松村）は趣味でサーフィンをしますが、いわき市のサーフポイントの目の前は、家の土台のみが残っているようなところがございます。また、宮城県仙台市や石巻市においても、同様のことが言えるかと思います。仙台市等は、街中などを見ると、震災前と同様にとても賑わっており、復興が大きく進んでいるように見えるところがございますが、海岸沿いに目を移すとまだまだと感ずることがあります。

東北圏の海はとても綺麗です。世界大会が行われていたサーフポイントもあり、いくつもの素晴らしいポイントがあります。その中でも、もっとも有名なポイントの一つとして仙台新港というポイントがあります。今年7月、地元の方にとっては待ちに待った、震災後初めてのサーフィンコ

ンテストが行われました。これは、仙台ローカルサーファーの平時からの海への思いや、ビーチクリーン等が認められたこと、海から始める町おこしへの行政側の理解と協力があったから行えた大会だったのではないかと思います。会場では良い方向性を持った物凄いパワーを感じました。

そのほかにも、日本屈指のサーフコンテストが隣の七ヶ浜で行われるなど、一步一步前へ進みだしている感と、東北圏人の復興への一体感を感じます。

